

「県小学校理科研究大会」について

1 開催ブロック割 と 会場順

ブロック割 ……県内を7ブロックに分けるが、福井・吉田地区は2つ分に数え計8ブロックとする。

会場順原則……南越(越前・今立・南条)、奥越(大野・勝山)、若狭(小浜・三方上中・大飯)、坂井、鯖丹(鯖江・丹生)、福井・吉田(福井・吉田)、二州(敦賀・三方)

2 開催年度 …… <昭和62年度より隔年開催>

昭和62年……南越	武生市武生南小	平成11年……二州	三方町明倫小
平成元年……奥越	大野市有終南小	平成13年……南越	池田第一小
平成3年……若狭	小浜市雲浜小	平成15年……奥越	勝山市成器西小
平成5年……坂井	坂井郡金津東小	平成17年……若狭	(小浜・遠敷・大飯) 6月に一次案内
平成7年……鯖丹	丹生郡城崎小	平成18年……授業研究会(福井・吉田/坂井/鯖丹で会場校)	
平成9年……高志	足羽郡上宇坂小	平成19年……全国大会開催(福井・吉田/坂井/鯖丹で会場校)	
平成21年……二州ブロック(敦賀)		平成23年……南越ブロック	
平成25年……奥越ブロック		平成27年……福井・吉田ブロック	
平成29年……若狭ブロック		平成31年(令和元年)……坂井ブロック	
令和4年……鯖丹ブロック		令和6年……福井・吉田ブロック	
令和8年……二州ブロック		令和10年……南越ブロック	

※前年までに、他教科との発表が重なっていると判明した場合、協議する

3 研究主題 自由(全小理・県小教研の研究主題を参考に)

4 経 費 前年度に部会より10万円、 発表年度に部会より15万円 その他に担当郡市の教育委員会に「補助」を依頼しない。

5 後 援 県教育委員会へ後援依頼(挨拶、講評のみ。補助金はない) ただし、必要に応じて地教委にも依頼してきた歴史がある。

6 担当事務局 担当郡市の部会が中心となる。(21年度以降は、18年度の県小理理事会で決定済)

7 担当事務局のすること

【前年度】…大会会場校の決定後、学校・地教委に挨拶回り

<大会事務局>担当郡市の理事と事務連絡。部会長と相談し、指導講師の決定と依頼。
会場校を中心に授業研究、大会運営などの研究会に参加する。

【当年度】…担当郡市の理事と事務連絡。

<大会事務局>県教委に後援依頼の文書を提出(部会長に依頼する)…4~5月
助言者の決定・依頼の文書(担当郡市理事と相談。県教委は部会長と相談)
「大会要項」作成。

一次案内………県教委、担当ブロック教委、教育研究所

二次案内(要項で) ……県下各小学校、県小学校長会長

終了後、お礼挨拶及び礼状発送。研究大会のまとめ(理科部会誌に掲載)

地教委に挨拶。大会運営のための県理事会(大会前20日頃)

研究大会終了後、お礼挨拶及び礼状発送。

<担 当 郡 市>地教委に対し後援依頼の文書と挨拶。「研究紀要」作成。

会場校を中心に授業研究。

(一次案内) 県教委,担当ブロック教委,教育研究所

(二次案内(要項で)) 県下各小学校,県小学校長会長